

医者も知らない平穏死



連載48

〈長尾和宏〉長尾クリニック院長。日本尊厳死協会副理事長。著書に『平穏死』10の条件など。

「胃ろうは絶対に嫌」とた。ご家族と温泉旅行を拒否する方が増えている 楽しむなど、胃ろうのおそうです。もしかしたら かげで驚くほど元気になすよ」と、

胃ろうを「意味のない延命措置」と捉えているの Bさん(45)は神経難病の一種、筋萎縮性側索硬化症(ALS)を患っています。ALSは筋肉が萎縮し、て食べ物のみ込めなく、で今も頭脳労働をしています。

私は著書にもはっきりと書いているのですが、決して「胃ろうに反対」という立場では ありません。むしろ、ハッピーな胃ろうを なる病気。Bさんはまだ元気な時に「胃ろうに頼ってまで生きていたくない」とおっしゃいます。

胃ろうの意義

胃ろうを造る時に せひ知っていたら たいことは、胃ろうは わめて優れた人工栄養法 であるということです。

認知症終末期のAさん(89)は誤嚥性肺炎で入院した時に胃ろうを造設された。その後自宅に帰り体力が回復し、現在の胃ろうは延命措置では ありません。足が不自由な人が車椅子を使うのと 同様、福祉用具などで 強く胃ろうの造設を勧めました。ご家族と話し合 った末、Bさんは胃ろう を造りました。弟さんと 2人で経営している会社 の経営戦略を立てる部門

しかし私は、「ALS 管栄養法」や鎖骨下の中心静脈にカテーテルを埋め込み高カロリー輸液を流し込む「中心静脈栄養法」ならいいという人が 少なくありません。しかし、胃ろうの意義を読み違えているようです。

経鼻経管栄養法や中心静脈栄養法に比べて、胃ろうのほうがずっと優れた人工栄養法なのです。

(写真はイメージ)

